

## シラバス参照

[シラバス検索](#) > [検索結果一覧](#) > シラバス参照

科目ナンバリングについて
こちらを参照してください。
講義コード
0C20001-1
授業科目名
防災コンピテンシー養成講座(災害に備える)
授業科目名(英字)
Disasters Competency Education
時間割
後期 木曜日 5校時 L-4 1 5
対象年次及び学年
1年次
担当教員
磯打 千雅子 井面 仁志 黒田 泰弘 中島 美登子 野々村 敦子
ナンバリングコード・水準
B2
ナンバリングコード・分野
THM
ナンバリングコード・ディプロマ・ポリシー(DP)
ecd
ナンバリングコード・提供部局
G
ナンバリングコード・対象学生
1
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応
N
ナンバリングコード・授業形態
Lx
ナンバリングコード・単位数
2
関連授業科目
防災リテラシー養成講座(災害を知る) 防災ボランティア講座、防災ボランティア実習
履修推奨科目
防災リテラシー養成講座(災害を知る)
学習時間
講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)

<p><b>授業の概要</b></p> <p>本授業では、災害列島日本に住む国民として知っておくべき、自然災害と防災情報に関する基本事項を講義する。具体的には、地震、風水害などの自然災害や火災等の実態と発生メカニズム、災害による社会的影響、災害情報と防災情報の取得方法と利活用および災害対応について、香川大学と外部機関の専門家が講義する。本講義と1学期の防災リテラシー養成講座（災害を知る）を履修すれば、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。防災士認定試験（受験料3000円が別途必要）に合格し、消防署が実施する「普通救命講習」を受講すれば、防災士の資格を申請することができる（申請料5000円が別途必要）。この科目では、課題探求のプロセスに実践を通じて関与することができます。（D科目）この科目では、リスクにかかわる知識・技能/現代社会におけるリスクについての知識を習得することができます。（R科目）</p>
<p><b>授業の目的</b></p> <p>日本では今後南海トラフの巨大地震等の大規模災害が発生することが想定される。このため、これから大規模災害の被害をできる限り軽減し、復興に当たることができる人材の養成が大学の重要な使命である。本授業は、災害時に自分の身を自分で守り、また周囲の人たちと協力して被災者を支援できる人材を養成することを目的としている。このためにはまず災害についてよく知り、災害から身を守る情報を取得して活用する能力を身につけるための基礎知識を習得することを目的としている。</p>
<p><b>到達目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地震、風水害などの自然災害や火災等の予防する知識を活用して、災害への備えを行うことができる。（共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）</li> <li>2. 災害や防災に関する情報を積極的に取得し、自分の身を守り、周囲の人を支援することができる。（共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応）</li> <li>3. 本講義と第1学期の防災リテラシー養成講座（災害を知る）を受講すると、日本防災士機構の防災士認定試験の受験資格を得ることができる。</li> </ol>
<p><b>成績評価の方法</b></p> <p>毎週のレポート（約40％：特に到達目標1・2に対応）と期末試験（約60％：特に到達目標1・2・3に対応）を総合して評価する。なお、単位の認定には、全体の2/3以上の出席と総合成績で60%以上の成績が必要である。</p>
<p><b>成績評価の基準</b></p> <p>成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。</p> <p>秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。</p> <p>優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。</p> <p>良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。</p> <p>可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。</p> <p>不可（60点未満）到達目標を達成していない。</p> <p>ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。</p> <p>合格又は了 到達目標を達成している。</p> <p>不合格 到達目標を達成していない。</p>
<p><b>授業計画並びに授業及び学習の方法</b></p> <p>【授業の方法】</p> <p>授業は担当教員が、災害現場の映像などをプレゼンテーションソフト等によって使い具体的に説明する。毎回の授業では出席の確認を兼ねたアンケートを実施する。また、次回講義の予習の位置づけで宿題を出すので、翌週に解答を提出すること。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1週 ガイダンス 被害想定とハザードマップ</p> <p>第2週 防災訓練－災害イメージ訓練－</p> <p>第3週 避難と避難行動</p> <p>第4週 事業継続計画と地域継続計画</p> <p>第5週 耐震診断と耐震補強</p> <p>第6週 身近でできる防災対策</p> <p>第7週 災害復旧と支援制度－高松市の防災対策－</p> <p>第8週 避難所の運営と仮設住宅の暮らし</p> <p>第9週 緊急救助技術を身につける</p> <p>第10週 災害医療</p> <p>第11週 地域の防災活動</p> <p>第12週 災害とボランティア活動</p> <p>第13週 惨事ストレスと心のケア</p> <p>第14週 災害と損害保険</p> <p>第15週 災害と危機管理，修了式</p> <p>なお、外部講師の都合によって、講義の順番が変更になる場合がある。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】</p> <p>講義の前にはテキストの関連箇所を予習して、授業を受けること。また、授業に関係した宿題を毎回課するので、テキストの防災士教本を参考に解答し、翌週の授業時に提出すること。</p> <p>第1週 居住地域のハザードマップ等を確認する（4時間）</p> <p>第2週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第3週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第4週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第5週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第6週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第7週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第8週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第9週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第10週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第11週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第12週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第13週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第14週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>第15週 防災士教本の該当箇所を用いて事前学習を実施（4時間）</p> <p>【講義方法】</p> <p>本講義は原則として対面講義で実施するが、教室の定員数の制約から、一部の授業を遠隔、または遠隔と対面のハイブリッド形式で行う。なお、防災士試験の受験希望者を優先的に受講させる。</p>
<p><b>教科書・参考書等</b></p> <p>教科書：日本防災士機構編集発行「令和6年度防災士教本」（頒布価格：3500円※価格は出版元の都合で変更となる場合がある）（受講者は必ず購入すること）</p> <p>テキストで紹介された参考書。それ以外は授業中に講師が紹介する。</p>
<p><b>オフィスアワー</b></p> <p>担当教員のオフィスアワーを参照すること。講義全般については、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構（幸町キャンパス研究交流棟3階）の磯打千雅子が窓口（木曜日15：00－16：00）</p>
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</p>

ネクストプログラムの防災士養成プログラムの必修科目である。

参照ホームページ

メールアドレス

isouchi.chikako@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

防災・危機管理の実務経験を有する香川県内の行政，企業の担当者によるオムニバス形式の講義。